イ　B 校の実践

㈦　授業改善のプロセス

６月　動画記録の分析、授業中の観察より

生徒の実態	教師の指導の実態
○学習にまじめに取り組んでいる。 ○表現することが好きである。 《課題》 ・集中して話を聞くことが苦手で、内容を正確に理解できない生徒がいる。 ・表現活動において、モデルとして提示したもののまねに終わり、工夫がない。	○指示の出し方や発問が曖昧だったかな？何かを理解させるときに、ポイントを示していたかな？ ○生徒が自分で考えて、英文を作り出す時間を設定していなかったかもしれない。

手立て

※ 〔　〕内のアルファベットは、「授業の質的改善の手立てシート」に対応しています。

○情報をよく聞いて理解する必然性がある課題に取り組ませ、理解するときのポイントを示したり、理解度を確認させたりしてみよう。 → 主－R・S・W、対－C・E・G・J

○これまで身に付けた力を使って、自分で考えて表現する必然性がある課題に取り組ませよう。 → 主－B・N・O・S

日々の具体的な取組	生徒の変容
・人とのやり取りから情報を集めて課題を解決するような言語活動を行った。	→人の発話をよく聞いて、答えを得ようとする姿が見られるようになった。
・Teacher Talk で、生徒の学習意欲を喚起するために、題材や発問を工夫したり、語彙レベルに気を配ったり、理解を助けるために視覚教材を活用したりした。また、理解のポイントを示したりした。	→学習意欲が高まり、活動への取組がより積極的になった生徒が増えた。
・活動の手順を示す際に、モデルを提示したり、ワークシートに示したりして、可視化した。	→可視化したことで、理解に時間が掛かる生徒も、自分で確認しながら活動を進めていた。
・理解したことを人に説明させたり、集めた情報をペア	→人に説明するために、よく話を聞いた

で共有させたりする場を設定した。	り、分かろうとしたりする姿が見られるようになってきた。
・教科書を活用した言語活動を行った。 ・帯活動の時間を活用し、生徒が自分で考えて表現する活動に継続的に取り組ませた。	→自分が言いたいことを即座にまとめて人に伝えることに少しずつ慣れてきた。活動を楽しんでいた。

10 月　授業中の観察、テストの結果より

生徒の実態	教師の指導の実態
《課題》 ・課題テストの結果や授業中の見取りから、「正確に書く」という面で二極化が進んでいる。 ・まじめに学習しているが効果が上がっていない生徒も少なくない。	○授業中、話す活動は多いが、書かせる活動は十分時間がとれていなかったな。 ○生徒に考えさせたり、自由に英文を作り出させたりする機会がもっと必要かな？ ○学習活動時に、生徒に正確さを意識させていなかったな。 ○生徒が目的を持って、積極的に学習に取り組むようになるための仕掛けが足りなかったな。

手立て

※ 内のアルファベットは「授業の質的改善の手立てシート」に対応しています。

○技能統合型の活動をもっと増やし、習得技能の偏りを減らそう。	主－N・O・S、深－E・G
○生徒が「もっと表現したい、できるようになりたい！」と思うような工夫をしよう。	主－B・C・F・G・P、対－J、深－A・B
○学習の目的を意識させ、学習到達状況について生徒に自覚させる手立てを取ろう。	主－E・H・J・P・W、対－N、深－F

(ｲ)　授業実践　10 月実施

教材　SUNSHINE ENGLISH COURSE 2

Program 6　A Work Experience Program

単元指導計画

1　本単元で主に育てたい力	○キーワードを頼りに「話すこと［発表］」につながる力
2　単元ゴールの活動	「文化発表会において、職場体験学習で体験したことを後輩に伝えよう」 ・メモを頼りに、職場体験について 40 秒程度の発表や対話をする。
3　単元学習到達目標と単元で働く「見方・考え方」	・自分の職場体験学習で体験した内容について ・来年職場体験学習をする後輩が興味を持ってくれるように ・聞き取りやすい英語で分かりやすく話すことを心掛けながら ・メモを頼りにスピーチを行う
4　ゴールの達成に向けた取組	①　教科書の本文を活用した、技能統合型の活動を設定する。 ②　生徒の意欲を引き出すような活動を設定し、活動の目的や単元ゴールを先に示す。 ③　モデルを示し、学習のポイントを分かりやすく伝える。 ④　自分が何を伝えたいか考えさせ、教科書やこれまでのワークシート、辞書を活用できるようにする。 ⑤　動画記録を基に自己評価を行い、修正をすることができるようにする。

本時の目標と授業の実際

目　標

メモを頼りに、適切な声量や明瞭さで 40 秒程度の会話ができる。（外国語表現の能力）

授業の実際と授業研究会の記録

黄色の付箋：主体的学びの視点からの意見
桃色の付箋：対話的な学びの視点からの意見
緑色の付箋：深い学びの視点からの意見

【全体を通して】

・英語で授業が進められ、教師の発話や友達の発表を通して、ペアでの活動が多く行われていたので、また、教師やパートナーからの Feedback を通して学ぶことができる良い機会となっていた。そのことを生徒に意識させれば、学びが広がることが期待できる。〔A・B・C・D・F・J・W〕

1 UP 生徒が活動を振り返ることができる時間を設定し、学習達成状況を自覚させる。→生徒はより主体的に学習するようになるのではないか。〔V〕

1 UP 知識や技能の習得に向けて、学習活動時に意識すべき点を生徒から引き出す。→生徒が自分の学習のプロセスを振り返り、学習方法を見直したり、力を付けるのに何が必要かについて考えたりする良い機会になる。〔K〕

過程	学習活動	生徒の動き	授業研究会の記録 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に向けた意見 ※ 1 UP は今後取り入れると良いと思われる手立て
導入	1　Mini×2 Talk を行う。	・与えられたテーマに従って、40 秒程度の会話を続けた。 ・相手を 3 回変えて会話を行った。	・Mini×2 Talk では、既習事項を活用しながら、会話を続けようとする姿が見られた。〔G〕 1 UP Mini×2 Talk で、相手を変えて同じ練習を 3 回行っていたが、その都度意識させる視点（発音、スピード、デリバリー、内容など）を与える。→生徒は練習の目的をより明確に意識して練習に取り組むことができる。〔R〕

黄色の付箋：主体的学びの視点からの意見
桃色の付箋：対話的な学びの視点からの意見
緑色の付箋：深い学びの視点からの意見

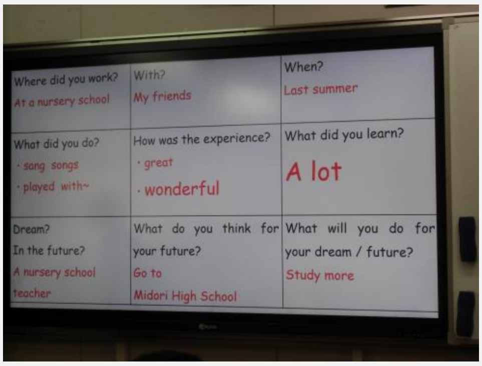
導入	2　Dictionary Game を行う。	・代表の生徒が、教師役になって単語を読み上げた。 ・生徒は辞書から読み上げられた単語をできるだけ早く探し出し、教師からの確認を受けた。 ・早く探すことができた生徒は、教師と一緒に、残りの生徒の確認を行った。	・生徒に活動をリードする役を与えたり、ゲーム形式の活動を取り入れたりして、生徒が楽しみながら学習に取り組むことができる雰囲気づくりがなされていた。〔B〕 1 UP　設定された場面において、Dictionary Game で取り扱った単語を使ったオリジナルの英文を即時に作らせる。→既知の知識と組み合わせて、即興で場面に合った英文を作る練習ができる。〔G〕
	3　Shadowing を行う。（教科書 Section 1・2）	・英語のリズムを意識しながら Shadowing を行った。 ・表現の定着に向けて、発音や文法，意味を意識して練習を行った。	1 UP　Shadowing の際、活動の目的を理解させ、評価の観点を示す。→生徒は具体的な学習到達目標を持つことができ、学習意欲が高まることが期待できる。〔R〕 1 UP　ペアで確認させ、互いにフィードバックを行わせる。→自分のよさや改善点に気付く機会が生まれる。〔F・L〕
	4　学習目標を確認する。 めあて：メモを頼りに、即興でインタビューに答えよう！		

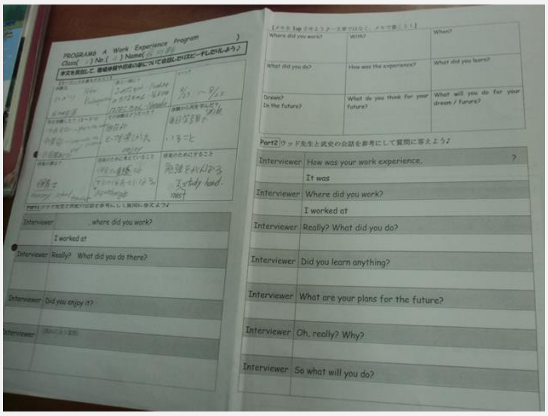
黄色の付箋：主体的学びの視点からの意見
桃色の付箋：対話的な学びの視点からの意見
緑色の付箋：深い学びの視点からの意見

展開

５　Review 1
Section 1 を基に職場体験インタビューを行う。

・生徒役（インタビューに答える人）は、自分のことについて２～３文で応答した。
・教科書本文のやり取りを参考にした。





・モデルを分かりやすく示し、活動の見通しを持たせていた。〔R〕

1 UP　ペアでの活動では、相手の発話をよく聞かせて Feedback をさせ合えば、もっと相手の発話をよく聞き、学び合いもできるのではないか。〔F・L〕

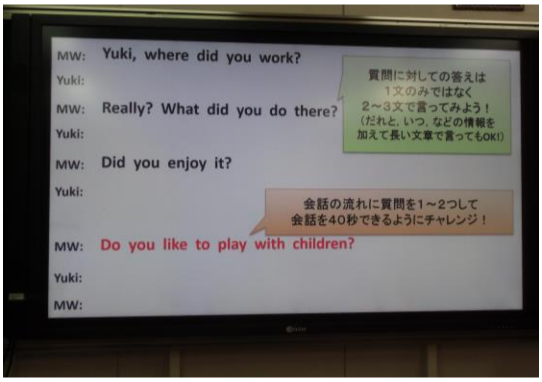
・表現が分からないとき、指示はなくても教科書を参考にして、英文を作り出そうとしていた。〔T〕

開

６　Review 2
Section 2 を基に職場体験インタビューを行う。

・ウッド先生役（インタビューする人）は、相手の応答に対してうなずいたり、コメントしたりした。
・生徒役（インタビューに答える人）は、自分の実際の職場体験について２～３文で応答した。

・活動の流れの説明と目標を可視化して、分かりやすく示していた。〔R〕



黄色の付箋：主体的学びの視点からの意見
桃色の付箋：対話的な学びの視点からの意見
緑色の付箋：深い学びの視点からの意見

展開			・教科書の内容を基に、コミュニケーションの必然性がある技能統合型の活動が設定されていて、生徒は習ったことを思い出しながら、活動に取り組んでいた。〔G〕 1 UP ⤴「話すこと」について自己分析をさせるために動画記録を撮り、練習を経た後に撮った記録と比較させる。→自身の成長や改善点に気付かせることができる。〔J〕 1 UP ⤴ 動画サイトを利用し、やり取りや発表のモデルとなる動画を見せ、自分の動画記録と比較させる。→話すことに関わる知識や技能について振り返ることができ、次の学習につながることが期待できる。〔D〕
	7　Challenge メモを頼りにスピーチに挑戦する。	・話す順番を検討した。 ・個人で練習した後に、ペアでの活動を行った。 ・メモを見ながらスピーチを行った。 ・インタビューへの答えを、そのまま１文ずつつなぐようにしてスピーチを構成した。	・先輩や後輩に英語で体験を伝えるという場面設定を行い、生徒の学習意欲を喚起していた。〔A・N〕 ・職場体験の内容についてやり取りしたことを、発表という形で人に伝える活動につなげているので、既習表現を活用する機会が生まれる。また、どんな表現を使っていたのかを振り返ることもできる。場面が変わるので、生徒は新たな目標を持って活動することができると思う。〔F・G〕
まとめ	8　活動を振り返り、パフォーマンスの撮影への見通しを持つ。	・教師からの評価を聞いた。 ・次の学習内容を聞いた。	

第２学年　英語科学習指導案

１　単元名　PROGRAM 6　A Work Experience Program (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

２　単元について

(1)　教材観

本単元では，不定詞を使って，自分のしたいこと，行動の目的，何をするためのものかを英語で表現する能力とそれらを積極的に相手に伝えようとする態度を育成することがねらいである。

Section 1，2 では，これまでに学習してきた過去形や不定詞を使って，職場体験でそれぞれの生徒が体験したことについてやり取りを行わせる。Section 3 では，これまでに学習してきた過去形，未来表現，助動詞などを使って，職場体験で学んだことや今後努力していくこと，将来の夢について，まとまりのある英語でスピーチを行わせる。本単元終了後には，コミュニケーション活動「POWER-UP 5　『インタビュー記事を書こう』」で体験記を作成する。PROGRAM 6 でインタビューやスピーチを行い，その内容をまとめて体験記を書くという，複数の技能を統合した活動を行う。これらの活動に取り組ませることによって，それぞれの生徒が自分の実体験を踏まえ，学習した内容をどう使うかを思考し，判断する力を養うことができる教材である。

(2)　生徒観

本学級の生徒は，全体的に英語学習への関心が高い。男女間の関係が良好で，ペアでの学習では，互いに教え合いながら取り組むことができている。10月に実施した意識調査では，全体の87%の生徒が，ペアやグループで英語を話す活動が「好き」「まあまあ好き」と答えていた。しかし，四技能の中で「話すこと」に一番苦手意識を持っている生徒が，全体の50%いることが明らかになった。練習にはまじめに取り組んでいるものの，学習した表現を正確に使いこなすことができない生徒が見られる。

課題テストの結果や授業中の見取りからも，「正確さ」という面で，二極化が進んでいることが分かる。知識や技能の習得が困難な生徒たちに応じた、細やかな手立てを取っていく必要がある。

(3)　指導観

１学期は，プロジェクトゴール「My Project 4『スキット作りを楽しもう』」に向けて，各単元のBasic Dialogをスキットに発展させ，ペアごとに発表させてきた。２学期からは，帯活動のMini×2 Talkを取り入れ，身近な話題で30秒程度会話することに慣れさせている。Section 1，2では，自分の職場体験に関するメモを頼りに，ウッド先生のインタビューに答える対話活動を行う。Section 3では，桃子のスピーチを参考にして，40秒程度のスピーチ活動を行う。書く活動の前に対話やスピーチをさせることで，即興で話すことに慣れさせたい。また，話した内容を書くことにおいて再現させることで，正確さを意識させたり，内容について再考させたりすることができると考える。Section 3のスピーチ後に，体験記の英作文を作らせる。英作文は互いに読み合わせた後に，簡単にコメントさせる活動を行う。

文化発表会において，本単元で作成した体験記を展示し，生徒が本文を基にインタビュー活動を行う映像を上映する予定である。また，代表生徒はステージ上に登場し，職場体験や将来の夢について英語でスピーチしたりやり取りしたりすることを計画している。本単元の学習を文化発表会における発表につなげることで，生徒が学習したことを発信する機会を作り，学習内容と学校行事とを関連させることで，生徒の意欲を高めさせたい。さらに，本単元の学習を通して，スピーチの型を身に付け，２学期のプロジェクトゴール「My Project 5『スピーチをしよう―こんな人になりたい』」につなげられると考える。

3　単元の目標

(1)　メモを頼りに，40 秒程度の会話やスピーチができる。
(2)　職場体験や将来の夢について８文以上の英文を書くことができる。

4　評価規準

ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ　外国語表現の能力	ウ　外国語理解の能力	エ　言語や文化についての知識・理解
①　ペアやグループの活動で積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 ②　分からない単語や英文を辞書や教科書等を使い，調べて表現しようとしている。	①　メモを頼りに，40 秒程度のやり取りやスピーチができる。 ②　構成を考えながら８文以上の英文を書くことができる。	①　教科書の本文を聞いたり，読んだりして正しく理解することができる。 ②　クラスメートのスピーチを聞いたり，体験記を読んだりして正しく理解することができる。	不定詞の名詞的用法，副詞的用法，形容詞的用法の運用についての知識を身に付けている。

5　単元計画（全 11 時間　本時５／11）

時間	○ねらい　　・学習活動	評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 不定詞の名詞的用法「～すること」を理解する。 ・“want to”と“like to”を使ったコミュニケーション活動を行う。	ア①② エ	活動の観察 後日ペーパーテスト
2	○英語のインタビューに慣れる。 ・新出語句の導入，本文の音読，内容理解をする。 ・Section 1 本文を参考にし，自分の職場体験についてやり取りを行う。	ウ①	活動の観察 後日ペーパーテスト
3	○不定詞の副詞的用法「～するために」を理解する。 ・Section 1 本文を参考にし，自分の職場体験についてやり取りを行う。 ・「～するために…した」を使ったコミュニケーション活動を行う。	エ	後日ペーパーテスト
4	○インタビューに２～３文で答える練習をする。 ・新出語句の導入，本文の音読，内容理解をする。 ・Section 2 の本文を参考にし，職場体験についてやり取りを行う。	ウ①	活動の観察 ワークシート
5 本時	○メモを頼りに，職場体験や将来の夢について会話し，その内容を基にスピーチの練習をする。 ・Section 1，2 の本文を参考にし，職場体験や将来の夢についてやり取りを行う。 ・会話用のメモを頼りに，スピーチを行う練習をする。	イ①	活動の観察 後日発表
6	○不定詞の形容詞的用法「～するための…」を理解する。 ・“I have a lot of things to learn.”に続けて，自分が今やるべきことについて３文以上で伝える活動を行う。	エ	活動の観察 後日ペーパーテスト

7	○メモを頼りに，スピーチを行う練習をする。 ・新出語句の導入，本文の音読，内容理解をする。 ・Section 3 の本文を参考にして，職場体験や将来の夢についてスピーチをする。	ア①② ウ②	↓	後日ペーパーテスト
8	○職場体験や将来の夢について，40 秒程度の会話やスピーチをする。 ・Section 1，2 の本文を参考にし，職場体験についてやり取りを行う（撮影）。 ・メモを頼りに，職場体験や将来の夢についてスピーチをする（撮影）。	イ②		発表(撮影)
9	○スピーチの内容に改良を加え，よりよい職場体験スピーチにする。 ・スピーチの構成を知る。 ・職場体験や将来の夢について，８文以上の英文を書く。	エ		体験記
10	○体験記を完成させ，互いの体験記にコメントする。 ・互いの体験記を読み合う。 ・友達の体験記を読んで，簡単にコメントする。	ウ②	▼	体験記 活動の観察
11	○単元テストを行う。 ・単元のまとめをする。	ウ① エ		ペーパーテスト

6　本時の目標

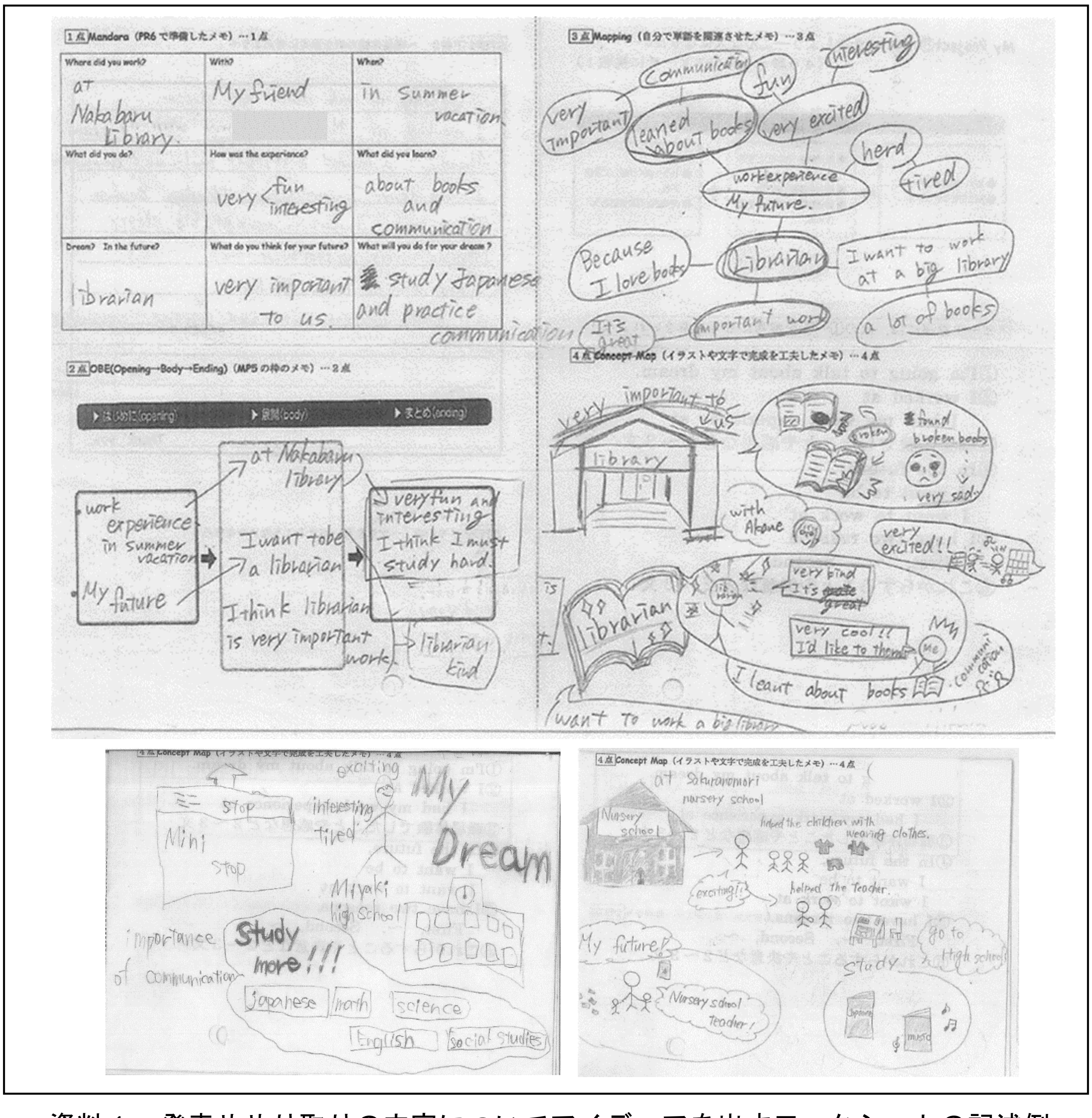
メモを頼りに，適切な声量や明瞭さで 40 秒程度のやり取りができる。（外国語表現の能力）

7　本時の展開

過程	学習活動	○教師の指導・支援 ●活動が十分でない生徒への手立て	評価の方法
導入	1　Mini×2 Talk を行う。 2　Dictionary Game を行う。 3　Shadowing を行う。 （教科書 Section 1，2） 4　学習目標を確認する。	○会話を続けるポイントを示す。 ●会話の苦手な生徒に，人の発話をまねしてよいことを伝える。 ○問題を出す代表の生徒に，大きな声で分かりやすく発話するよう促す。 ○英語のリズムを意識しながら shadowing するよう促す。 ○表現の定着に向けて，発音や文法，意味を意識して十分練習を行わせる。	
	めあて：メモを頼りに，即興でインタビューに答えよう！		
展開	5　Review 1 Section 1 を基に職場体験インタビューを行う。 6　Review 2 Section 2 を基に職場体験インタビューを行う。	○生徒役（インタビューに答える人）は，自分のことについて２～３文で反応するように指示する。 ●教科書本文のやり取りを参考にさせる。 ○ウッド先生役（インタビューする人）は，相手の応答に対してうなずいたり，コメントしたりするよう声掛けをする。	行動観察 （後日発表）
展開	7　Challenge メモを頼りに，スピーチに挑戦する。	○生徒役（インタビューに答える人）は，自分のことについて２～３文で反応するように指示する。 ○話す順番を検討する時間を十分取り，個人で練習させてからペアでの活動を行う。 ○メモを見ながらスピーチしてよいことを伝える。 ●インタビューへの答えをそのまま１文ずつつなぐようにして話すよう促す。	
まとめ	8　活動を振り返り，パフォーマンスの撮影への見通しを持つ。	○活動の良かった点を褒め，生徒の意欲を高める。	

８　本時の評価

評価規準 (やり取り)	メモを頼りに，適切な声量や明瞭さで 40 秒程度のやり取りができる。 (外国語表現の能力)		
判断する めやす (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	適切な声量や明瞭さで，適切な英文を用いて，40 秒以上のやり取りができる。	不自然な間が空いたり，不完全な英文が含まれていたりするが，適切な声量や明瞭さで 40 秒程度のやり取りができる。	(B)に達していない状況
→(B)，(C) と判断した 生徒への支援		→つなぎ言葉を使うよう声掛けする。	→やり取りのモデル文を提示し，参考にして英文を作ることができるようにする。 →Teacher Talk や帯活動において，キーワードや絵を頼りに行うやり取りを継続して取り入れ，即興でのやり取りに慣れることができるようにする。
評価方法	後日　発表		



資料１　発表ややり取りの内容についてアイディアを出すワークシートの記述例

PROGRAM6　A　Work　Experience　Program

Class(　　) No.(　　) Name(　　　　　　　　)

本文を真似して，職場体験や将来の夢について会話したりスピーチしたりしよう♪

【キーワードを書きだそう！】

Where did you work?	With?	When?
What did you do?	How was the experience?	What did you learn?
Dream? In the future?	What do you think for your future?	What will you do for your dream / future?

Part1 ウッド先生と由紀の会話を参考にして質問に答えよう♪

Interviewer	, where did you work?
	I worked at
Interviewer	Really?　What did you do there?
Interviewer	Did you enjoy it?
Interviewer	（流れに合う質問）

【メモを 1up させよう♪―文章ではなく，メモで書こう！】

Where did you work?	With?	When?
What did you do?	How was the experience?	What did you learn?
Dream? In the future?	What do you think for your future?	What will you do for your dream / future?

Part2 ウッド先生と武史の会話を参考にして質問に答えよう♪

Interviewer	How was your work experience,　　　　?
	It was
Interviewer	Where did you work?
	I worked at
Interviewer	Really? What did you do?
Interviewer	Did you learn anything?
Interviewer	What are your plans for the future?
Interviewer	Oh, really? Why?
Interviewer	So what will you do?

資料２　ワークシート

振り返りブタさんシート

○単元名：PROGRAM6　A Work Experience Program
　～POWER-UP⑤Listening&Writing インタビュー記事を書こう【単元計画・自己評価表】

◎単元目標　　Class(　　　)　No.(　　　)　Name(　　　　　　　　　　)

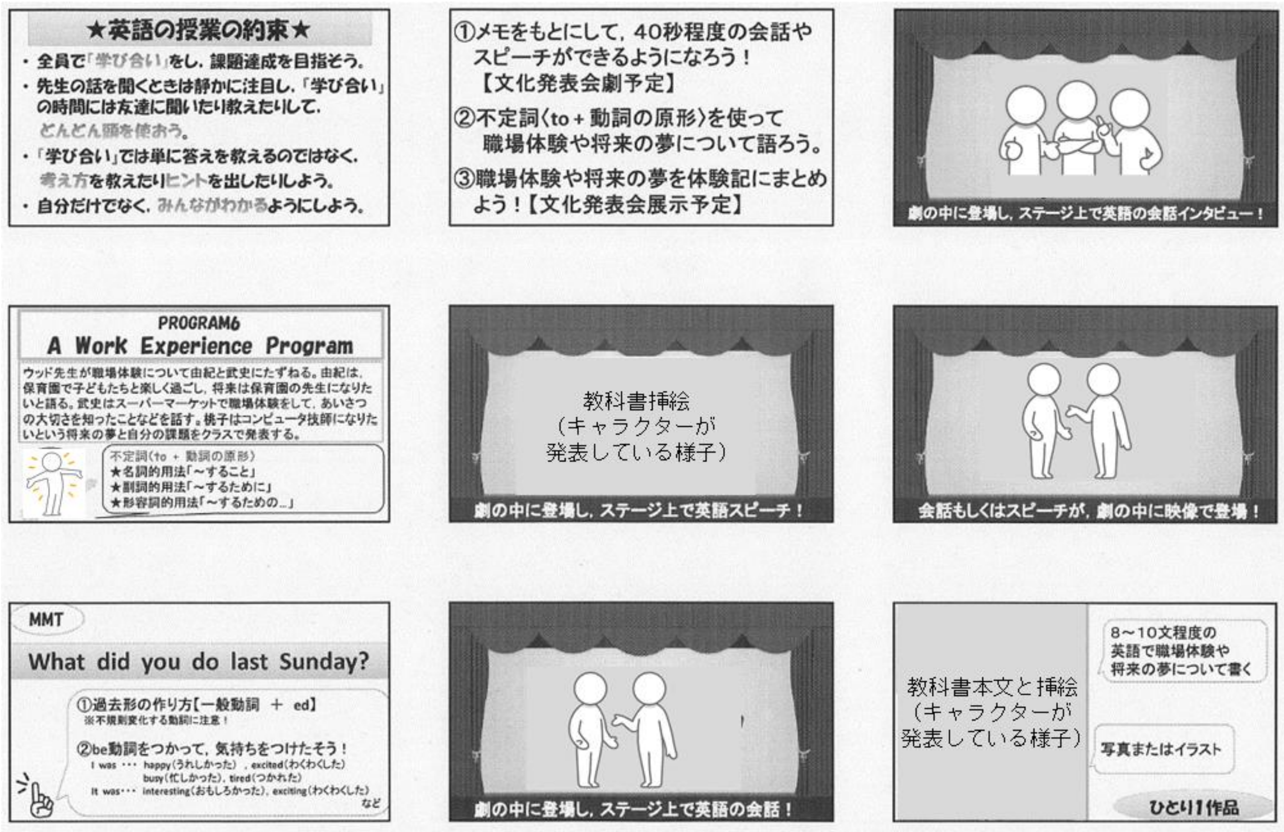
① メモをもとにして，４０秒程度の会話やスピーチができるようになろう！【文化発表会劇予定】
② 不定詞〈to ＋ 動詞の原形〉を使って職場体験や将来の夢について語ろう。
③ 職場体験や将来の夢を体験記にまとめよう！【文化発表会展示予定】

◎学習計画（全１１時間　学習の見通しをもとう）　　帯学習：Mini Mini Talk

時	学習内容・目標	自己評価
1	★PROGRAM6 ①文法（教科書 p52-53）不定詞〈to ＋ 動詞の原形〉文法 職場体験を英語で伝えよう　～学習の見通しをもとう～ ①「～すること」不定詞〈to＋ 動詞の原形〉の使い方がわかる。 ②"want　to ~" と"like　to ~"を使って自分の気持ちをいうことができる。	Sorry… So-so Good!!
2	★ PROGRAM6 ①文法・本文（教科書 p52-53） ①単語を正しく発音することができる。 ②本文の内容を正しく読み取り，質問に答えることができる。 ③本文をまねして，職場体験について質問したり応答したりできる。	Sorry… So-so Good!!
3	★ PROGRAM6 ②文法（教科書 p54-55）不定詞〈to ＋ 動詞の原形〉文法 ①「～するために」不定詞〈to＋ 動詞の原形〉の使い方がわかる。 ②不定詞〈to＋ 動詞の原形〉を使って行動の目的をいうことができる。 ③単語を正しく発音することができる。	Sorry… So-so Good!!
4	★ PROGRAM6 ②文法・本文（教科書 p54-55） ①p52,54　Listen（聞き取り）…正しく聞き取ることができる。 ②本文の内容を正しく読み取り，質問に答えることができる。 ③本文をまねして，職場体験について質問したり応答したりできる。	Sorry… So-so Good!!
5	★ PROGRAM6 ①，②本文（教科書 p52-55） ①①，②の本文をまねして，職場体験について質問したり応答したりできる。 ②会話に必要なメモを作成できる。 ③メモをもとにして，職場体験や将来の夢について簡単に会話できる。	Sorry… So-so Good!!
	【簡単インタビューを振り返って】 ①会話に必要なメモをつくることができた。【 できた　・　あと少し　・　できなかった 】 ②メモを見ながら質問に答えることができた。【 できた　・　あと少し　・　できなかった 】 ②相手に伝わる声の大きさで話すことができた。【 できた　・　あと少し　・　できなかった 】	
6	★ PROGRAM6 ③文法（教科書 p56-57）不定詞〈to ＋ 動詞の原形〉文法 ①「～するための…」不定詞〈to＋ 動詞の原形〉の使い方がわかる。 ②不定詞の問題に慣れよう～解いて慣れて身につけよう～ ③単語を正しく発音することができる。	Sorry… So-so Good!!
7	★ PROGRAM6 ③文法・本文（教科書 p56-57） ①本文の内容を正しく読み取り，質問に答えることができる。 ②PR6①～③の本文を正しく発音することができる。 ③メモをもとにして，職場体験や将来の夢について簡単にスピーチできる。	Sorry… So-so Good!!
8 9	★ POWER-UP⑤ インタビュー記事の書き方（教科書 p58-59） 発表（movie 撮影）　&　スピーチ内容を 1up させよう ①教科書やメモをもとに職場体験や将来の夢についての会話やスピーチができる。 ②職場体験や将来の夢について８文以上の英文を書くことができる。（体験記）	Sorry… So-so Good!!
10	★ PROGRAM6 ~POWER-UP⑤ 体験記完成☆（教科書 p52-59） 体験記を完成させよう！ ①体験記を完成できる。 ②互いの体験記を読んで，簡単にコメントすることができる。	Sorry… So-so Good!!
11	★ PROGRAM6 単元テスト（教科書 p50-59） 範囲：PW④ファーストフード店　~PR6 職場体験　~PW⑤インタビュー記事 ①PW④~PR6~PW⑤単元テストで３０点以上をとろう！ ②学習のまとめをしよう！	Sorry… So-so Good!!

☆彡単元の学習の振り返り

資料３　学習内容と目標を示したリスト



資料４　活動内容や目標の提示用スライド